

第2回教師みらいセミナーが開催されました！

令和8年度 第2回教師みらいセミナー

7月18日(土) 9:30~12:00 @宮崎県立宮崎南高等学校

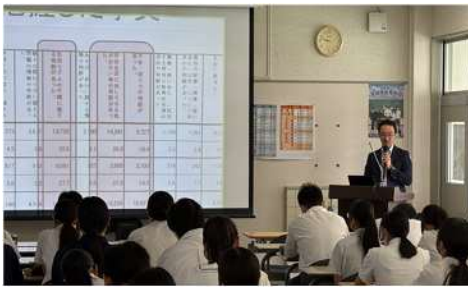
内容

「心理学を活かした不登校支援について考える」

・宮崎大学大学院教育学部 教授 境 泉洋

参加者数

会場参加 64名 オンライン参加 75名 計139名



今回のセミナーは、「心理学を活かした不登校支援」をテーマに行われました。まず、不登校児童生徒の現状について説明がありました。不登校は心理的・情緒的、身体的あるいは社会的要因により登校しない、またはしたくてもできない状態であり、生活リズムの乱れや学校生活への意欲の低下、不安など、様々な要因が背景にあることが紹介されました。

続いて、不登校支援の基本的な考え方について学びました。不登校支援は「学校へ登校させること」だけを目的とするのではなく、児童生徒が将来、社会的・精神的・経済的に自立した生活を送れるよう支援することが重要であると説明されました。また、不登校の背景は一人一人異なるため、それぞれの状況に応じた支援を行うことの大切さについても学びました。

その後、心理学の視点から不登校支援について講義が行われました。「学習性無力感」では、努力しても結果につながらない経験を繰り返すことで、「どうせやっても無駄だ」と感じ、意欲を失ってしまう心理について説明がありました。また、「オペラント条件づけ」では、行動の後の教師の関わり方や声掛けが、その後の行動に大きく影響することが紹介されました。さらに、「逆制止」では、不安や恐怖を抱えている児童生徒に対して、安心感や楽しい体験を積み重ねることが不安の軽減につながるということが説明されました。加えて、「スクールワイドPBS(ポジティブな行動支援)」では、問題行動を叱ることよりも、望ましい行動を学校全体で育て、認めることの重要性について学びました。

講義の後半では、参加者がグループに分かれ、「不登校の児童生徒を含む、全ての児童生徒が安心して登校したくなる学校」をテーマに、「行動マトリックス」を作成するワークショップを行いました。学校教育目標をもとに目指す児童生徒像を設定し、「授業中」「休み時間」など学校生活の様々な場面で望ましい行動を具体的に考え、肯定的な表現で整理しました。各グループは模造紙やオンライン上でまとめた内容を発表し、他グループの考え方を共有しながら、多様な視点を学び合いました。

参加者は、不登校児童生徒の現状や心理的背景について理解を深めるとともに、心理学の知見を活用した支援の在り方や、学校全体で児童生徒を支える環境づくりについて学ぶことができました。また、グループワークを通して、不登校の児童生徒を含む全ての児童生徒が安心して学校生活を送るための具体的な支援について考える貴重な機会となりました。

受講者の感想より

- 興味のある分野についてだったので、とても学びになりました。後半のワークショップでは、他校の方とも関わりを持つことができ、とても有意義な時間となりました。この講座で学んだことをこれからの進路選択に活かしていきたいです。ありがとうございました。
- 私は、不登校に対して目標にするべきことは学校復帰だと考えていましたが、今日の講話を聞いて目指すのは社会的自立だということが、一番記憶に残りました。教師になるにあたって適切な判断や知識を学べるよう、勉強をさらに頑張りたいと思いました。
- 不登校の人と、それに対する教育目標のイメージがガラリと変わりました。不登校の人の心理の状態や、それに対する支援の仕方も、想像以上に奥が深かったです。私の探究活動にも関わっているお話があって、「生徒ひとりひとりの頑張りに、先生が目を向けてあげることすごく大事なんだな」と、改めて知ることができました。今日学んだことは、ぜひ探究活動にも活かしていきたいです。

教師みらいセミナーのページはこちら↓

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/community/post-1.html>